

2016年6月22日

報道関係各位

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086

神戸市中央区磯上通 7-1-5

www.lilly.co.jp

EL16-36

この資料は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーが6月11日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。なお、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。この資料の内容および解釈についてはオリジナルが優先することをご了承ください。

- 784-P: 患者と医師との関係が、インスリンによる治療強化や糖尿病における心理的負担およびHbA1c値のコントロールに対し経時的に及ぼす影響について:MOSA1c試験からの洞察
- 789-P: 2型糖尿病患者間でのインスリン治療のアドヒアランスに関する要因:MOSA1c試験
- 1548-P: 患者、医師、ヘルスケア環境要因が2型糖尿病患者におけるインスリンによる治療強化に及ぼす影響:MOSA1c試験

新たな調査結果から浮彫りに インスリン治療のアドヒアランスとその治療結果における 医師と患者のコミュニケーションの重要性

～インスリンを使用中の2型糖尿病患者に対する2年間の多国間試験結果を
第76回米国糖尿病学会年次学術集会で発表～

2016年6月11日、米国インディアナ州インディアナポリス発 – イーライリリー・アンド・カンパニー糖尿病事業部(以下、「リリー糖尿病事業部」)の資金提供により実施された試験において新たに得られたデータから、医療関係者と糖尿病患者のコミュニケーションおよび両者の関係性が、糖尿病についての患者の知識および糖尿病を抱えて生きることに関連する心理的負担、並びに血糖自己測定頻度などの治療に関連する重要な活動やインスリン治療のアドヒアランスにどのような直接的影響を与えているかということが明らかになりました。この、ハーバード大学の関連医療機関であるブリガム・アンド・ウィメンズ病院の主導で実施された多国間の観察的インスリンによる治療強化(Multinational Observational Insulin Progression: MOSA1c)に関する試験に基づく6つの演題が、米国ニューオーリンズで開催された第76回米国糖尿病学会年次学術集会上において発表されました。

ブリガム・アンド・ウィメンズ病院の准医師兼ハーバード大学医学部准教授であり治験総括医を務めた Seoyoung C. Kim 医学博士は次のように述べています。「インスリンを使用中の2型糖尿病患者さんの過半数が血糖値を管理しきれていないということは多くの研究で明らかになっています。このような知見はMOSA1cで得られたデータでも確認されていますが、さらに気がかりなのは、この2年間の観察試験で血糖値を管理しきれているのは患者さんの三分の一以下であったにもかかわらず、最適な血糖管理ができていない患者さんのうち糖尿病薬物治療を追加投与されたのは約4割に過ぎないということです。さらに、患者さんと医療関係者の関係性が患者さんの心理的負担の程度や、場合によってはHbA1c値に影響しますので、患者さんへのコミュニケーションや患者さんの受け止め方が極めて重要なのです。」

北米、中南米、欧州、アジア、中東の 18 か国において、4,200 名を超える 2 型糖尿病患者のデータが 2 年間にわたり非介入的な方法でモニターされ、解析されました。その他に次のような知見も含まれています。

- 患者と医療関係者との関係の改善は、糖尿病に関連する心理的負担の軽減、糖尿病知識スコアの向上、血糖自己測定頻度などの自己管理に対する前向きな態度、指示された治療に対する自己申告のアドヒアランスの向上などに関与していましたⁱ。
- より若い患者、教育水準の高い患者およびアジアに居住している患者では、インスリンによる治療強化がなされる確率が高いということが確認されましたⁱⁱ。
- 年齢が若く、ベースラインの HbA1c 値が高く、NPH インスリンを使用していることは、試験終了時の HbA1c 値の高値と有意に関連していました(アドヒアランス調整後)ⁱⁱⁱ。

リリー糖尿病事業部グローバル・メディカル・アフェアーズ部門バイスプレジデントの David Kendall 医師は次のように述べています。「MOSA1c は、臨床的要因、心理的要因、また現在の医療制度に関する要因について幅広い見方を提供し、各々に関するニーズへの理解を広げてくれます。これらのデータは、なぜこれほどまでに多くのインスリンを使用中の患者さんが目標血糖値を達成できていないのか、その理由を深く理解するのに役立つ可能性があります。これは複数の要因が絡み合った複雑な問題であり、インスリン療法の調整が最も必要だと思われる際に糖尿病患者さんが直面している、文化的、社会的、個人的な障壁を具体的に考慮することが大切です。」。

これらの結果が得られたことは、糖尿病患者さんのインスリンによる治療強化に対する理解促進のための一つの重要なステップであり、医療関係者が各々の患者に合った治療法と適切なタイミングを決定するのに有用です。現在糖尿病の治療法は多岐にわたり複雑化しており、大きな公衆衛生的な問題になっているので、今後ますます研究を進めることで、この問題に取り組んでいくための一助となるはずで、これらの知見の結果として、リリーは今後数か月間、この試験に参加したあらゆる地域の糖尿病専門家にご協力いただき、文化横断的な幅広い視点で、いかにしてこの MOSA1c から得られた豊富な情報を分析していくべきかについて考察していきたいと考えています。

MOSA1C について

MOSA1c は包括的な大規模試験として、患者背景／行動、ヘルスケアセッティング、医療関係者との関係性と 2 型糖尿病の治療結果との関連性を長期的な前向き試験として調査しました。また、世界 18 か国における 4,000 名以上の成人患者と 220 名の医療関係者を観察しました。研究対象患者の半数以上は新興国に在し、ニーズが高くてもデータは限られていました。年齢は 20 歳から 79 歳、約半数が男性であり、教育水準、雇用、保険のタイプなど社会的、経済的な状況は多様でした。この試験を通じ、世界における様々な治療パターンが広く明らかになっただけでなく、さらに被験者の実際の生活状況をより詳しく知ることができ、意義深いデータを取得することができました。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、必要とする人々の生活を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>

イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病患者さんやケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病患者さんの生活の改善に努めます。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lillydiabetes.com>

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、疼痛、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

#

参考文献:

ⁱ Linetsky B, Curtis BH, Rogers JR et al. The effect of the patient-physician relationship on insulin progression, diabetes distress and HbA1c control over time: Insights from the MOSA1c study. Data presented at the 76th American Diabetes Association Scientific Sessions, New Orleans, LA.

ⁱⁱ Kim SC, Eddings W, Rogers J et al. Effects of patient, physician and health care environment factors on insulin progression in patients with T2DM: the MOSA1c study. Data presented at the 76th American Diabetes Association Scientific Sessions, New Orleans, LA.

ⁱⁱⁱ He M, Curtis BH, Eddings W et al. Factors associated with insulin adherence among patients with type 2 diabetes: the MOSA1c study. Data presented at the 76th American Diabetes Association Scientific Sessions, New Orleans, LA